

東京都立 多摩総合医療センター

多摩総合医療センターと日野市医師会との医療連携

日野市医師会
会長 野田 清大



このたび、多摩総合医療センターと日野市医師会で医療連携協定を結ぶことができました。また、9月17日の連携の会では、日野市医師会員7名で出席させていただき、多くの先生方と直接お話ができとても有意義な時間を過ごさせていただきました。脳外科の脳梗塞に対する血管内処置の紹介や、診療科別に分かれての意見交換会があり、とても印象に残る内容でした。

日野市は多摩川と浅川に挟まれた日野台地と南側の多摩丘陵から成り立っていて、市の形はよく、犬が西を向いた顔に似ているとされています。水には恵まれており、もともとは稲作の盛んな地域でした。最近では区画整理事業も進み、昔のような水田の風景は少なくなり、住宅地が目立つようになりました。日野という地名は、武蔵野国国府が府中にあったところに日野台地に烽火台を設けたという伝説から起こり、はじめ火野と書いたが、のちに日野に改めたという説があります。大昔から府中と日野は連絡を取り合う密接な関係だったことがわかります。市内には高幡不動尊や多摩動物園があり多くの観光客が訪れています。また、幕末の新撰組、土方歳三の生地としても知られ、毎年5月には新撰組祭りが開かれています。

日野市医師会は昭和63年に南多摩医師会より独立し、36年目を迎え、A会員100名B会員50名の医師会です。また、平成25年4月より公益社団法人の認定を受けております。今は、2年後の医師会館の移転に向けての準備、災害時の医療救護活動についての計画、訓練の実施、地域包括システムの構築に向けての多職種連携や在宅医療の充実などに重点的に取り組んでおります。

日野市内には日野市立病院がありますが、日野市民18万人を受け入れるには規模も小さく、周囲の病院との連携は医師会にとって重要な課題です。日野市は府中市の西側に接しておりますが、境界を多摩川が流れ、2次医療圏としては南多摩医療圏と北多摩医療圏に分かれ、医療連携しにくい関係にありました。平成10年に四谷大橋、平成19年に石田大橋が完成すると府中市への交通のアクセスは格段に良くなりました。多摩総合医療センターには、府中病院のころから多くの患者さんが日野市からも通院しており、又、救急医療でも多くの患者さんがお世話になっております。日野市民にとっては、地域の基幹病院として信頼されています。特に日野市の東部の地域では、交通アクセスが良くなったこともあり、多くの患者さんが多摩総合医療センターへの紹介を希望されております。

多摩総合医療センターは、日野市医師会にとって重要な基幹病院であり、これからは、顔の見える関係を構築し、より良い医療連携を作りたいと思っております。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。



血液内科のご紹介



血液内科部長 香西 康司

平素より大変お世話になっております。

血液内科(輸血科)の紹介をさせていただきます。

当科は、平成2年7月から診療を開始して、本年でちょうど25年を迎えることができました。これもひとえに諸先生方のお力添えのおかげとっております。ありがとうございます。

診療内容は白血病や悪性リンパ腫、多発性骨髄腫などの造血器悪性疾患の治療が中心ですが、溶血性貧血などの各種貧血や血小板減少など血液疾患全般の診療をさせていただいております。

外来診療

外来は月曜日から金曜日の予約制となっております。血液疾患一般に対応させていただいておりますが、一部の凝固系疾患につきましては、血液凝固専門医へ紹介させていただく場合があります。

近年、悪性リンパ腫や骨髄異形成症候群、多発性骨髄腫などでは外来での施行が可能な化学療法が増えてきています。患者さんの状態にもよりますが、外来化学療法も積極的に行っております。

血液疾患の性質上、早急に外来対応をして欲しいという患者さんもいらっしゃるかと思います。そのような場合は、その旨をお伝えいただくかERへ連絡いただければ、できるだけ早急に対応させていただきたいと考えております。

入院診療

入院病棟には無菌室7床(個室)、準無菌室8床(4人部屋が2部屋)からなる移植センター(写真)が併設されており、造血幹細胞移植をはじめ造血器悪性疾患に対する化学療法を中心に診療を行っています。

造血幹細胞移植は、平成8年より開始して、平成26年度までで336例(同種骨髄移植46例、同種末梢血幹細胞移植8例、非血縁者間骨髄移植23例、臍帯血移植213例、自家末梢血幹細胞移植46例)施行してきました(図)。少子高齢化のため兄弟間に骨髄提供者が見つかる症例が少なく臍帯血移植、特に骨髄非破壊的臍帯血移植(いわゆるミニ移植)が多くなってきております(図)。

昨年度の当科診療制限中は、諸先生方には大変ご迷惑おかけしました。全国的に血液内科医は人手不足で「絶滅危惧種」とも言われております。幸いにも今年度より通常診療体制に戻っておりますが、限られた「資源」の有効活用のためには、諸先生方との「病病連携」・「病診連携」が重要と考えております。症状が安定した患者さんや輸血だけなどの保存的治療の患者さんなどは、諸先生方と相談させていただくことがあるかと思います。お忙しいところお手数おかけして申し訳ありませんが、ご検討いただければ幸いです。よろしくお願いいたします。

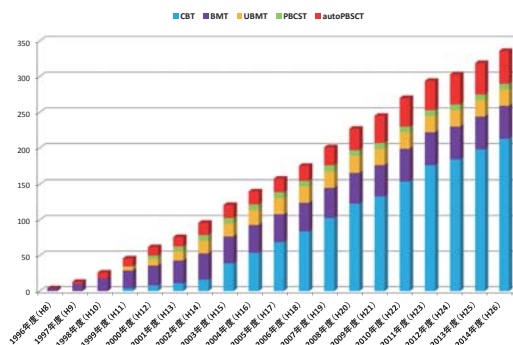
今後とも、ご指導・ご鞭撻よろしくお願いいたします。



移植センター
(無菌病棟)



造血幹細胞移植数



▲臍帯血(解凍時)



▲臍帯血(凍結保存時)



▲臍帯血移植





扁桃摘出術とステロイドパルス療法を行い臨床的寛解を認めたIgA腎症の一例

腎臓内科医員 土岐 徳義



【症例】60歳台 男性

【主訴】血尿、蛋白尿

【既往歴】なし

【併存症】糖尿病、高血圧症

【現病歴】10年程度、糖尿病、高血圧症の保存的治療をかかりつけ医で行っていた。当科受診1年前に健診で尿潜血2+、尿蛋白2+を初めて指摘された。その後当科紹介受診し、尿潜血3+、尿蛋白2+、Cr 1.1mg/dlと糸球体腎炎の存在を疑い腎生検を行った。

【初診時検査所見】

尿定性 蛋白 2+、潜血 2+

尿沈査 RBC 30-49/HPF 顆粒円柱、変形赤血球

尿蛋白 0.8g/gCr

生化学 Cr 1.10mg/dl、BUN 16.1mg/dl

腹部エコー 腎サイズは正常 皮質菲薄化を軽度認めた。

【腎生検所見】

光学顕微鏡所見：糸球体総数12個、Global sclerosis 2個、Fibrocellular crescent 2個

巣状分節性にメサンギウム増殖を認めた。

メサンギウム増殖性糸球体腎炎に矛盾しない所見であった。

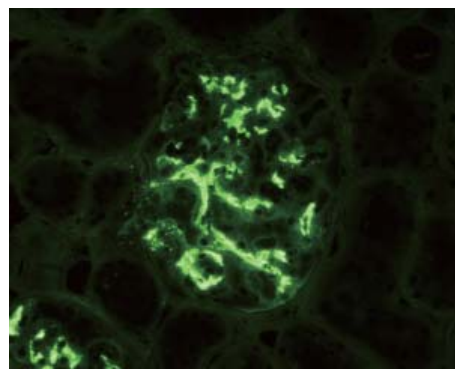
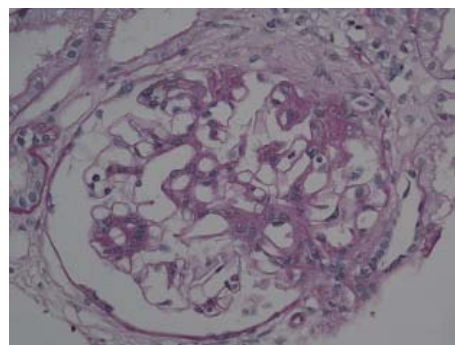
免疫蛍光所見：IgG(-)、IgM(+)、IgA(++）、C1q(-)、C3c(-)、C4(-)、Fibrinogen(-)

【診断】IgA腎症

【臨床経過】活動性のあるIgA腎症のため、当院耳鼻咽喉科に扁桃摘出術を依頼し、その後ステロイドパルス治療を3クール施行した。その後内服ステロイド治療をプレドニゾロン30mgの隔日内服で開始し、漸減して1年後にステロイド内服を終了した。ステロイドパルス後2か月の時点で血尿は寛解し、蛋白尿も正常範囲まで改善し、臨床的寛解を達成した。その後、血尿、蛋白尿の悪化は認めていない。

【考察】IgA腎症は我が国では一次性糸球体疾患の中の30~40%を占めるとされている。中には自然寛解するものもあるが、20年間で約40%の患者が腎不全へと進行し、当初考えられていたより腎機能の長期予後はよくない慢性糸球体腎炎であるとの見解が現在広まっている。歴史的には、ステロイド単独治療が行われてきたが、扁桃摘出術とステロイドパルス療法(扁桃摘パルス療法)の有効性が最近着目されている。短期間の観察期間では、ステロイド単独治療との有意差は認めない報告が多いが、KawamuraらのRCTでは蛋白尿を有意に改善し、メタ解析でも腎機能予後の改善を示唆する報告がなされている。当院の扁桃摘パルス療法でも他報告と同等の、潜血寛解90% 尿蛋白寛解60%程度である。

【結語】IgA腎症は扁桃摘パルス療法で従来治療よりも予後改善が示唆される。軽度の蛋白尿、血尿でも精査を行い積極的治療が必要となることがある。



都立多摩総合医療センター ● 人事異動

【採用】平成27年9月1日付

呼吸器外科医員

脳神経外科医員

【採用】平成27年10月1日付

整形外科医員

【転入】平成27年10月1日付

精神神経科医員

葭矢 健仁

石神 大一郎

毛利 貫人

林 健太郎

【退職】平成27年8月31日付

呼吸器外科医員

【退職】平成27年9月30日付

整形外科医員

精神神経科医員

産婦人科医員

産婦人科医員

前田 英之

岩永 康秀

近藤 公一

吉野 育典

中村 浩敬



神経・脳血管内科のご案内

平成27年10月より神経・脳血管内科の外来を毎週月曜日に担当させていただくこととなりました。上田雅之と申します。これから近隣医師会・医療機関の先生方には大変お世話になるかと存じますが、何卒宜しくお願い申し上げます。私は文京区千駄木にある日本医科大学付属病院で脳卒中から神経難病まで幅広い神経疾患の診療に従事してきました。当院では脳神経外科と協力して脳卒中および脳卒中中のリスクのある患者さんの治療を担うことができるように努力いたします。また、多彩な神経疾患やめまい・しびれ・頭痛などについては、隣接する神経難病医療を専門とする都立神経病院からの脳神経内科医と協力して対応させていただきたいと存じます。些細な症状でも構いませんのでご相談下さい。なお、当面は月曜日午後の外来でご不便をおかけしますが、どうか宜しくお願い致します。最後になりましたが、先生方の益々のご健勝をお祈り申し上げ、ご挨拶とさせていただきます。

●● 各種講習会・勉強会のご案内(医療従事者向け) ●●

医療連携臨床懇話会

平成28年3月17日(木)午後7時～午後9時 講堂フォレスト

- 「炎症性腸疾患の診断と治療」 消化器内科 非常勤 吉岡 篤史
- 「心房細動性脳梗塞予防のための新たな治療戦略：超低侵襲左心耳閉塞術」 心臓血管外科部長 大塚 俊哉

※演題等に変更がある場合がございます。詳細は別途ご案内いたします。

公開C P C

各日とも午後6時～午後7時(2月のみ午後6時30分～午後7時30分)
4階401会議室

平成27年12月24日(木)、平成28年1月21日(木)、平成28年2月18日(木)

●● 各種講習会・勉強会のご案内(患者さん向け) ●●

※参加無料、事前予約不要です

糖尿病講習会 (会場：都立多摩総合医療センター講堂フォレスト)

- 「糖尿病とインスリン」「インスリン製剤の管理」「年末年始の食生活」
日時：平成27年12月16日(水)午後2時から午後4時
- 「糖尿病と脳梗塞」「尿検査」「脳梗塞予防の食事管理」
日時：平成28年1月13日(水)午後2時から午後4時
- 「糖尿病と心臓」「糖尿病の運動療法」「心電図について」
日時：平成28年2月17日(水)午後2時から午後4時

当院は原則として、**紹介予約制**です。
外来及びCT、MRI検査は必ず予約を取り、
紹介状をお願い致します。

ご意見、ご投稿、お問い合わせは
医療連携係(秋山・飯岡 内線2171)まで

<電話予約センター>

月～土 受付時間 午前9:00～午後5:00

TEL : 042-323-9200

<FAXによる診療予約>

月～土 受付時間 午前9:00～午後5:00

FAX : 042-323-9205

緊急の場合…必ず事前にご連絡ください

代表電話：042-323-5111から、①平日の午前9時～午後5時は「〇〇科責任医師」、②午後5時以降、土曜日、日曜日及び祝祭日は「〇〇科の救急担当医」とお申し付けください。

※一部の診療科では、夜間・休日は専門医がおられませんので診療できない場合があります。

※受診が決まった場合は、患者さんに紹介状(診療情報提供書)をお渡しください。

東京都立多摩総合医療センター

〒183-8524 東京都府中市武蔵台2-8-29
TEL 042-323-5111(代表)

